

平成 12 年度事業報告

事業記録

日 付	内 容
平成 12 年 4 月 28 日	高知県知事より財団法人の設立指令書が交付される。
5 月 07 日	第 1 回通常理事会開催（於ベルリーフ大月）
5 月 08 日	NHK 高知放送局の地方版ニュースで財団設立について放映
5 月 11 日	財団設立について高知新聞に掲載
6 月 12 日	竜串海中公園地区におけるイシサンゴ類生育状況の予備調査（高知県環境保全課より依頼され、7 月に現況概要及び調査計画について報告を行った）
6 月 12 日	財団法人の登記完了
6 月 17 日	足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア研修会で講演（於大月町エコロジーキャンプ場：岩瀬対応）
7 月 16 日	足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア研修会：スノーケリング法及び自然観察法に講師として参加（於大月町エコロジーキャンプ場：岩瀬対応）
7 月 19 日	高知県大月町サンゴ産卵：採卵して平成 12 年度実験開始
7 月 23 日	和歌山県串本町サンゴ産卵：同上
7 月 25 日	財団機関誌『CURRENT』創刊
9 月 01 日	サンゴ種苗放流実験（於大月町西泊）
9 月 04 日	研究所建設予定地決定（大月町西泊スルギ谷）
9 月 07 日	NHK 高知放送局：財団の研究内容紹介放映
9 月 11 日	NHK 全国版：同上放映
9 月 22 日	日本サンゴ礁学会第 3 回大会（於東京・慶応大学） ・林徹・中地シュウ・岩瀬文人，ケイ酸カルシウムチップを用いたクシハダミドリイシ種苗の作成：林口演 ・岩瀬文人，財団法人黒潮生物研究財団の設立と研究所の建設：岩瀬ポスター発表
10 月 25 日	『CURRENT』Vol.1, No. 2 出版
10 月 28 日	足摺宇和海国立公園竜串地区サンゴ移植会で講演（於土佐清水市竜串荘：岩瀬対応）
11 月 06 日	研究所設計発注（高知市：山本設計株式会社）
平成 13 年 1 月 25 日	『CURRENT』Vol.1, No. 3 出版
3 月 21 日	平成 12 年度第 2 回通常理事会開催（於ステラケミア（株）本社会議室）
3 月 23 日	研究所建設入札（大月町：山本建設に落札）
4 月 17 日	平成 12 年度評議員会開催（於ベルリーフ大月）

事業の内容

【研究所の建設】

財団法人の実質機関である「黒潮生物研究所」の建設は、当初平成 13 年 4 月の開所を目指していたが、建設予定地の策定に時間がかかったため、およそ半年の遅れになっている。建設用地は平成 12 年秋にようやく高知県幡多郡大月町西泊のスルギ谷にある西泊区共有地及び個人の所有地（合計 723.98 m²）を賃借することに決定した。これをうけて平成 12 年 11 月に高知市の山本設計(株)に設計を依頼し、4 ヶ月後の平成 13 年 3 月に修了した。4 月に着工し、9 月末に竣工引き渡しを受けた後、水槽設備及び観測設備の工事を行い、10 月中に開所の予定である。

研究所は鉄骨造 2 階建てで、建築面積は 336.46 m²、延べ床面積は 644.46 m²である。1 階には飼育室、サンルーム飼育室、作業室、倉庫、ウェット研究室、暗室、男女トイレ、シャワー室、機械室、レクチャールームの各室、2 階には研究室、書庫、標本庫、応接室、休憩（宿泊）室、台所・食堂、シャワー室の各室がある。

なお、研究所の目の前が海岸になっており、地先約 100 m の所から最大毎時約 10 トンの海水を汲み上げて飼育室とウェット研究室に常時供給する予定である。

【研究活動】

1. 造礁サンゴの飼育技術の研究（林、中地、岩瀬）

造礁サンゴは生育環境の詳細が明らかにされていないため、飼育が困難であると考えられている。当財団のメインテーマとして造礁サンゴの生育環境を解明し、その飼育技術と増殖技術を確立することを目指して研究を進めている。なお、本研究は財団の設立準備室としてステラケミファ(株)に設けられていた海洋生物研究室で 1997 年から開始している。

（1）人工的に作られた環境での造礁サンゴの長期飼育の継続

サンゴの棲んでいる海の環境を人工的に再現しようと試みた閉鎖循環システムの水槽で、実験水槽の水質を監視しながらサンゴ（ミドリイシの仲間）の枝片を飼育しており、平成 13 年 3 月で飼育期間は 4 年 10 カ月になった。

（2）クシハダミドリイシの受精卵からの飼育技術の確立

7 月に採卵したクシハダミドリイシを水槽内で飼育している。今年度の目標は 100 個体以上のサンゴを残すことだったが、平成 13 年 3 月末現在 4 個体の生残にとどまった。定着基盤の処理と光環境に問題があったものと考えられる。

（3）クシハダミドリイシの種苗生産技術の確立

前年度（於：ステラケミファ(株)海洋生物研究室）に確立したクシハダミドリイシの幼体の移植技術を用いて放流用種苗の作成を試み、放流の方法も含めた種苗生産技術の確立を目指している。今年度は移植された幼サンゴの定着状況について検討を行った。

研究成果の一部については日本サンゴ礁学会第 3 回大会で口演発表を行った。

2. 海藻を利用した濾過システムの開発（岩瀬）

自然界では動物の排泄物から発生する窒素やリンは、主として植物が吸収し同化する

ることにより、再び動物が利用できる形になることで地球規模での物質循環の輪の中に組み込まれている。この最も明快なシステムを飼育水槽の濾過システムとして利用することを目的に実証水槽を試作し、長期にわたる運用実験を行った。平成 12 年度に窒素とリンについてはほぼその収支が解明され、濾過システムとして有効であることが実証された。現在引き続き微量成分についてその特性を解明中である。

3. 干潟の環境を人工的に再現した水槽の作成（林）

人工的に干潟をつけた自作水槽を作成し、和歌山県御坊市の干潟から生物ごと採取した潟泥をを入れて干潟の環境を再現した。この水槽の物質循環を飼育水の水質から検討したところ、潟泥の内部は好気的環境と嫌気的環境を繰り返すことによって水質を維持していることが推測され、この水質維持機能を利用したサンゴの飼育水槽システムを作成する可能性が示唆された。本研究の内容は CURRENT に報告した。

4. クビレツタに関する研究（中地）

当財団では、閉鎖循環式水槽の水質浄化システムにおけるクビレツタの有用性を検討中である。このクビレツタについての基礎的な知見を得ることを目的として、水槽飼育下での詳しい観察を行った。これによりクビレツタの成長速度、小枝の形成過程、また成熟に伴う藻体の変化などについて知見を得ることができた。本研究の結果の一部は CURRENT に報告した。

5. 東京大学総合研究博物館所蔵標本（ヤギ類）の再整理（岩瀬）

平成 11 年 9 月から東京大学総合研究博物館が所蔵しているヤギ類の標本（明治時代のもの）を再整理している。平成 12 年度は 9 月に作業を行い、212 標本全てについて保存液の交換、ラベルの書き換え、データのデジタル化等の保存措置を終わった。平成 13 年度中に東京での最後の作業を予定しており、標本と記載論文との照合を行った後、必要な標本については一部あるいは全部を借用して種の再検討を行い、目録及び再検討結果を論文として発表する予定。

6. 京都大学附属瀬戸臨海実験所所蔵標本（ヤギ類）の再整理（岩瀬）

平成 11 年 11 月から京都大学附属瀬戸臨海実験所が所蔵しているヤギ類の標本（多くは昭和前半のもの）を再整理している。平成 12 年は 7 月に作業を行い、103 標本について保存液の交換、ラベルの書き換え、データのデジタル化等の保存措置を行った。残り標本数は約 300 で、再整理が終了するには今後 2 ~ 3 年程度かかるものと思われる。

【広報・啓蒙活動】

1. 機関誌「CURRENT」の発行（中地）

財団の情報公開・広報、啓蒙活動を目的とした機関誌「CURRENT」を創刊した。購読対象は生き物に興味のある中学生以上とし、財団の研究成果をできるだけ平易に解説することとした。研究機関の機関誌というと、とかく堅いイメージになりがちで

あるため、子供にも手にとって貰えるように、表紙を毎号違ったイラストで飾ったり、裏表紙には軽いコラムと生き物の写真を載せるなどして、親しみやすいレイアウトになるように心がけた。平成 12 年度は 7 月、10 月、1 月の 3 号を発刊したが、毎号約 120 部を各地の研究所・研究機関のほか、研究所建設予定地近隣の小中学校、一部高校など教育機関 39 か所に無料配布しており、財団の活動内容を広く伝えていく上で大きな役割を果たしている。また、創刊号の送付とともに各地の研究機関や自然観察施設などに交換図書の申し入れを行い、平成 12 年度には下記の機関から機関誌・情報誌の寄贈を受けた。受贈された文献の総数は 49 点で、貴重な資料を得るとともに他の研究機関との情報の交換にも役立っている。平成 13 年度からはホームページによるアナウンスなどを通じて、有料購読者を増やしていきたい。

受贈交換文献

財団法人海中公園センター「海中公園情報」
串本海中公園センター「マリンパビリオン」
財団法人海中公園センター「八重山海中公園研究所年報」
東海大学「東海大学紀要海洋学部」
東海大学社会教育センター「海のはくぶつかん」
東海大学海洋科学博物館「東海大学科学博物館年報」
東海大学博物館「海・人・自然」
かごしま水族館「さくらじまの海」
四万十学舎「ころばし」
和歌山県立自然博物館「和歌山県立自然博物館館報」

2. 黒潮生物研究財団ホームページの立ち上げ

機関誌の発行と同様に財団の情報公開・広報を目的として、ホームページを立ち上げた。ホームページ開設に先立ち、独自ドメイン名（kuroshio.or.jp）を取得するとともに、レンタルサーバを利用して、ホームページ管理と財団職員の電子メールアドレスの発行・パスワード管理を自分で行えるようにした。財団のホームページは 12 月下旬から運用を開始しており、財団設立の目的や研究所建設計画とその設備について、機関誌「CURRENT」の紹介などの当財団の情報を公開している。平成 13 年度はコンテンツの充実とアクセス件数の増加を計っていくとともに、各地の研究機関、研究所などのホームページと相互リンクを張り、情報交換にも努めたいと考えている。

ホームページのアドレスは、<http://www.kuroshio.or.jp/> である。

【その他】

高知県夜須町及び土佐清水市からサンゴの生育状況等についてのアドバイスを求められ、岩瀬が対応した。また、足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア研修会等で講演を求められ、岩瀬が対応した。

5 . 平成 12 年度業績

[著 作]

[CURRENT] 財団機関誌

・ Vol. 1, No. 1 (2000. 7.)

海へのささやかな贈り物 (理事長 深田純子) p. 2

『CURRENT』創刊のご挨拶 (専務理事 岩瀬文人) p. 2

研究所との出会い (中地シュウ) p. 3

水槽のなかの干潟 (林 徹) p. 4-5

水中メガネ・イシガキフグとゴカイの群れ (中地シュウ) p. 6

・ Vol. 1, No. 2 (2000. 10.)

クビレツタの成長と成熟 (中地シュウ) p. 2-3

大月の海 (岩瀬文人) p. 4

私の遍歴 (林 徹) p. 5

水中メガネ・タワシウニの高層団地 (中地シュウ) p. 6

・ Vol. 1, No. 3 (2001. 1.)

サンゴ学入門 (1) 珊瑚とサンゴ (岩瀬文人) p. 2-3

大和川の水門にすむカメ (中地シュウ) p. 4-5

水中メガネ・死に場所を探しにきたブラックバス (中地シュウ) p. 6

[その他]

・ 岩瀬文人, 2000. 10, ANTHOZOOLOGIA (76) 八放サンゴ類 その7, マリンパピリオン (串本海中公園センター), 29 (10) : 56-57

・ 岩瀬文人, 2001. 02, ANTHOZOOLOGIA (77) 八放サンゴ類 その8, マリンパピリオン (串本海中公園センター), 30 (2) : 2-3

[講 演]

・ 岩瀬文人, 2000.06.17 サンゴの産卵から成長まで, 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会 (高知・大月) : 依頼講演

・ 岩瀬文人, 2000.07.16 自然解説について, 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア研修会 (高知・大月) : 依頼講演

・ 林 徹・中地シュウ・岩瀬文人, 2000.09.22 ケイ酸カルシウムチップを用いたクシハダミドリイシ種苗の作成, 日本サンゴ礁学会 (東京・慶応大学)

・ 岩瀬文人, 2000.09.23 財団法人黒潮生物研究財団の設立と研究所の建設, 日本サンゴ礁学会 (東京・慶応大学) : ポスター発表

・ 岩瀬文人, 2000.10.28 サンゴという生き物, 足摺宇和海国立公園竜串地区サンゴ移植会 (高知・土佐清水) : 依頼講演

6. 平成 12 年度決算状況

収 支 計 算 書

(平成 12 年 4 月 1 日～平成 13 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	予算額	決算額	差異	備考
収入の部				
基本財産運用収入	0	2,401,834	2,401,834	初年度未定の為、 予算未計上
基本財産利息収入	0	1,834	1,834	
基本財産配当金収入	0	2,400,000	2,400,000	＼
寄付金収入	173,000,000	20,000,000	153,000,000	研究所建設未着工
雑収入	0	181,481	181,481	
受取利息	0	528	528	
雑収入	0	180,953	180,953	社宅費個人負担額
前受金収入	0	3,500,000	3,500,000	配当金前受金
預り金収入	0	255,554	255,554	
当期収入合計	173,000,000	26,338,869	146,661,13	
支出の部				
資産取得支出	150,700,000	1,413,605	149,286,395	
研究所建設	150,000,000	0	150,000,000	研究所建設未着工
自動車取得	700,000	572,462	127,538	軽四輪車取得
仮事務所等設備	0	257,143	257,143	浴槽設備施設
仮事務所等備品	0	550,000	550,000	水中カメラ取得
建設仮勘定	0	34,000	34,000	建築確認申請証紙代
事業費	2,700,000	703,571	1,996,429	
研究開発費	2,700,000	703,571	1,996,429	
管理費	4,500,000	5,870,513	1,370,513	
仮事務所等賃借料	500,000	1,327,674	827,674	
運送費	0	28,669	28,669	
旅費交通費	1,500,000	2,464,538	964,538	
通信費	100,000	165,577	65,577	
消耗品費	1,200,000	383,114	816,886	
事務用品費	0	126,935	126,935	
水道光熱費	200,000	32,913	167,087	
新聞図書費	200,000	91,556	108,444	
諸会費	50,000	67,060	17,060	
支払手数料	0	21,823	21,823	
保険料	0	90,980	90,980	
器具備品費	350,000	774,104	424,104	
租税公課	0	85,021	85,021	(内未払税金 7,000 円)
会議費	400,000	0	400,000	
教育研修費	0	66,953	66,953	
雑費	0	143,596	143,596	
人件費	15,000,000	16,854,837	1,854,837	
給料手当		11,545,356		
賞与		3,742,010		
法定福利費		1,551,921		(内未払分 124,905 円)
福利厚生費		15,550		
雑損失	0	340,365	340,365	
雑損失		340,365	340,365	仮払消費税
予備費	100,000	0	100,000	
その他	0	21,778	21,778	
前払費用	0	20,000	20,000	前払賃借料
仮払消費税(還付金)	0	1,778	1,778	
当期支出合計	173,000,000	25,204,669	147,495,331	(内未払分 194,905 円)
次期繰越収支差額	0	1,134,200	1,134,200	

正味財産増減計算書

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

(単位：円)

科 目	金 額	
増加原因の部		
1 基本財産運用収入		
基本財産利息収入	1,834	
基本財産配当金収入	2,400,000	2,401,834
2 寄付金収入	20,000,000	20,000,000
3 雑 収 入		
受 取 利 息	528	
雑 収 入	180,953	181,481
4 基本財産収入		
(定期預金)	20,000,000	
(有価証券)	15,000,000	35,000,000
合 計		57,583,315
減少原因の部		
1 事 業 費		
研究開発費	703,571	703,571
2 管 理 費		
仮事務所等賃借料	1,327,674	
運 送 費	28,669	
旅費交通費	2,464,538	
通 信 費	165,577	
消 耗 品 費	383,114	
事務用品費	126,935	
水道光熱費	32,913	
新聞図書費	91,556	
諸 会 費	67,060	
支払手数料	21,823	
保 險 料	90,980	
器具備品費	774,104	
租 税 公 課	85,021	
教育研修費	66,953	
雑 費	143,596	5,870,513
3 人 件 費		
給 料 手 当	11,545,356	
賞 与	3,742,010	
法定福利費	1,551,921	
福利厚生費	15,550	16,854,837
4 減価償却額		
建物附属設備減価償却額	10,182	
車両運搬具減価償却額	85,869	
工具器具備品減価償却額	99,000	195,051
5 雑 損 失		
雑 損 失	340,365	340,365
合 計		23,964,337
当期正味財産増加額		33,618,978
期末正味財産合計額		33,618,978

貸借対照表
平成13年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	金額	負債の部	金額
【流動資産】	1,350,883	【流動負債】	3,950,459
現金・預金	1,329,105	預り金	255,554
前払費用	20,000	未払金	124,905
未収入金	1,778	前受金	3,500,000
【固定資産】	36,218,554	未払法人税等	70,000
【有形固定資産】	1,218,554	負債の部合計	3,950,459
建物附属設備	246,961		
車両運搬具	486,593	正味財産の部	
工具器具備品	451,000	【正味財産】	33,618,978
建物仮勘定	34,000	【うち基本金】	35,000,000
【投資等】		現預金(基本財産)	20,000,000
【基本財産】	35,000,000	有価証券(基本財産)	15,000,000
定期預金	20,000,000	【当期正味財産減少額】	1,381,022
有価証券(スラクミア)	15,000,000		
資産の部合計	37,569,437	負債及び正味財産合計	37,569,437

(注) 有価証券評価金額 1,245,000,000 円
 300,000 株
 @4,150 円

財 産 目 録
平成 13 年 3 月 31 日現在

(単 位 : 円)

科 目	金 額		
資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現 金 現金手許有高	188,582		
普通預金 大和銀行御堂筋支店	901,386		
郵便貯金 徳島貯金事務センター	239,137		
前払費用 4 月分事務所賃借料	20,000		
未収入金 13 年 3 月期末未収還付消費税	1,778		
流 動 資 産 合 計		1,350,883	
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金 大和銀行御堂筋支店	20,000,000		
有価証券 スラケミア(株) 300,000 株	15,000,000		
基 本 財 産 合 計	35,000,000		
(2) その他の固定資産			
建物附属設備 浴槽設備一式	246,961		
車両運搬具 軽トラック 1 台	486,593		
工具器具備品 水中カメラ一式	451,000		
建設仮勘定 建築確認申請証紙代	34,000		
その他の固定資産合計	1,218,554		
固 定 資 産 合 計		36,218,554	
資 産 合 計			37,569,437
負債の部			
1 流動負債			
預 り 金			
3 月分源泉所得税・住民税	125,051		
3 月分社会保険料	130,503		
未 払 金 3 月分社会保険料会社負担分	124,905		
前 受 金 スラケミア(株)配当金仮受	3,500,000		
未払法人税等 13 年 3 月期 地方税均等割額	70,000		
流 動 負 債 合 計		3,950,459	
負 債 合 計			3,950,459
正 味 財 産			33,618,978

計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について

基本財産に組み入れた有価証券は移動平均法に基づく原価法によっております。

(2) 固定資産の減価償却について

建物附属設備、車両運搬具、及び工具器具備品

定額法によっております。

(3) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金・前払費用・未払金・前受金及び預り金を資金の範囲に含めています。なお、当期末残高は、下記3に記載のとおりであります。

(4) 消費税の処理方法について

税抜き方式によっております。

2 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりであります。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	-	20,000,000	0	20,000,000
有価証券	-	15,000,000	0	15,000,000
合計(基本金)	-	35,000,000	0	35,000,000

3 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりであります。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	-	1,329,105
合 計	-	1,329,105
未払金	-	194,905
3月分社会保険料 及び未払税金	-	194,905
合 計	-	194,905
次期繰越収支差額	-	1,134,200

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりであります。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却 累計額	当期末残高
建物附属設	257,143	10,182	246,961
車両運搬具	572,462	85,869	486,593
工具器具備	550,000	99,000	451,000
建設仮勘定	34,000	0	34,000
合 計	1,413,605	195,051	1,218,554

5 資産及び負債の重要な科目別増加額及び減少額は、次のとおりであります。
 (単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
(1) 資産増加額		
当期収支差額	1,134,200	
基本財産/投資等/定期預金	20,000,000	
基本財産/投資等/有価証券	15,000,000	
建物附属設備取得額	257,143	
車両運搬具取得額	572,462	
工具器具備品取得額	550,000	
その他	55,778	
増加額合計		37,569,583
減少の部		
(1) 資産減少額		
建物附属設備減価償却額	10,182	
車両運搬具減価償却額	85,869	
工具器具備品減価償却額	99,000	
(2) 負債増加額		
前受金増加額	3,500,000	
預り金増加額	255,554	
減少額合計		3,950,605
当期正味財産増加額		33,618,978